



「元祖」「本家」と名乗る店と、そんな店のある懐かしい町を、「元祖」愛好家・南仲坊と「本家」半可通・坂崎重盛が訪ね歩く、「ニッポンの元祖・本家の町めぐり」。弟子と見習いを引き連れて、今日も今日とて珍道中——第一回は、東京・江東区の森下から門前仲町あたりまでをぶらぶらします。

元祖に出会い、本家で迷走

愛好家弟子（以下、弟子） ここが森下ですか。

坂崎 見てのとおりです。

半可通見習（以下、見習） ぱっと見た感じ、高層ビルもなく、庶民的な町に見えます。

南 このあたりは、けっこう古いんですか？

坂崎 どうか。この町並みは戦後にできたんじゃないですか。あ、ここ「山利喜」は有名な居酒屋です。東京三大煮込みの一つといわれて、いつも混んでるんですよ。

見習 煮込みとフランスパンが一緒に出てきたりする

んですよ。

坂崎 だから、ちょっと洋風の煮込みで。

南 この、いろいろ小っちゃいタヌキがいいね。

弟子 信楽焼じゃないタヌキの置物って珍しいですね。石を彫って作ってあるのかな。

南 ここは昔の建物の雰囲気を残してるわけ？

坂崎 うーん、でも、すごいきれいになっちゃってる。

南 そうはいつても、ガワを被せただけじゃない？

窓の格子は、けっこう古いよ。

坂崎 ポストモダンだね。前は木造の建物で、そこにこう、暖簾がぴつとかかってて。

見習 本館と新館があるんじゃないですか？

坂崎 もういつこ、新しいのが向こうにね。で、この

「山利喜」の並びがさくら鍋、つまり馬肉の「みの家」。

南 すごい看板建築だ。

見習 元祖や本家といってもいいような、立派な店構えです。

弟子 地下鉄を降りるときに、「みの家」はこちらです」というアナウンスが流れていました。このあたりでは有名な店なんですね。

坂崎 もう、けとばし屋としては超有名。吉原の「大江」とともに。

南 両国にも何かあったでしょ？

坂崎 「山くじら」？ あそこはももんじ屋。あ、「京金」。ここも、けっこう有名な蕎麦屋ですよ。

弟子 お昼はやっていないようです。この新大橋通りを道なりに行くと、門前仲町に出るんですよ。

坂崎 今日はそっちのほうまで歩いてみますか。

南 この交差点は、纏まとが、ほら。

見習 わ、角かくごとにデッカイ纏まとが四つ立ってます。

坂崎 お、浪花家。こないだ行った麻布十番にもあった鯛焼きの元祖。

弟子 さっそく元祖登場ですね。麻布十番の店から暖簾分けしたのかもしれない。

南 じゃ、ここも一匹ずつ焼いてるのかな。

弟子 そのようです。

南 これが元祖深川発祥投句箱。

弟子 入れ口が、カエルの口になっている。

坂崎 深川といったらカ



いろいろ小さいタヌキ